

山田みやこの活動報告

令和5年6月3日(土)

令和5年度 第一回宇都宮市つながりサポート女性支援事業連携会議

宇都宮市つながりサポート女性支援事業とは、生理用品の提供をきっかけに相談支援の輪につなげ、相談員が寄り添い一緒に考える事業。済生会宇都宮病院が核に活動している。

<報告>

宇都宮大学ダイバーシティ研究環境推進本部 川面充子さん

「令和4年度コロナ過における女性が抱える生理に係る不安や困りごとに関する実態調査報告」

アンケート調査結果より（983人）

30代、20代、40代、10代の順にアンケートに回答。全体の約8割。

職業は、パート非正規、大学生、専門学生、次いで正規社員・職員となっている。

家族形態は、配偶者と子ども、自分と親、自分と配偶者、自分と子ども、一人暮らしの順になっている。

年収は10万未満、10万～50万未満、50万～100万未満、100万～200万未満を合わせると、全体の約5割。

抱えている不安は、経済的なこと、子どもの育児についてに次いで、将来全般、健康のこととなっている。

昨年度と大きな違いはない。

抱えている不安・年齢別では

- 10代 将来全般
- 20代 将来全般
- 30代 子どもと育児
- 40代 経済的なこと、子どもの育児
- 50代 子どもの育児
- 60代 健康のこと

・不安について誰かに相談できたか

相談した	57.8%		相談できなかった、しようと思わなかった理由
できなかった	8.2%		諦めている 34.3%
しようと思わない	17.6%	⇒	窓口を知らない 28.7%
無回答	16.4%		相手がない 28.3%
			恥ずかしい 15%

※諦めているが3割を超えている

・今後どのような女性支援が必要か

子育て支援が6割を超え、次いで経済的支援、物資の無料配布

・生理用品を購入・入手するのに苦労したことがあるか、理由は？

約2割が苦労したことがある。その理由は、収入が少ない、優先度が低い、自由なお金がないの順で、親に頼みにくい、親が買ってくれない。併せて1割。

・自由記述

「生理用品無料設置と無料配布」

対面せずに受け取る対応が欲しい。広く情報の発信必要。

「生理の貧困の背景を知り、必要な人に届く支援」

本当に困っている人に渡せる仕組みが必要。

「学校の生理用品設置」

子ども達にきちんと教え、生理用品を満足に使えるようにする。

「経済的なこと」

母子・児童手当で生活しているので生理用品配布は助かる。

うつ病で働けない。

経血が多いので夜用が欲しい。

女性にとって必要なもの。このようなサポート情報を周知したい。

「生理の貧困（生理用品配布）を通して生理や生理の貧困について理解を深める」

無料配布や教育現場で生理の理解を深めて欲しい。普通に話せる世の中になって欲しい。

もっと小さい頃から生理についての学習をして欲しい。このサポート事業を知ってよかった。

「つながりサポート事業から感じたこと」

経済的理由で入手できない人には支援が必要。高校生の娘に情報を伝え、ネット拡散し役立てればと思った。

様々な理由で生理のケアができず困っている人がいることが分かった。

整理に対する男性の理解も進んでいなくて、タブー視されることなく、身近なものになれば良いと感じ、何かの形で力になればと思う。

「安心して生理について話や相談が出来る場所」

生理不順などを気軽に相談出来る場所があればよかった。

生理になり始めの人が相談しやすい場所・人がいるといい。

「周知方法」

ジェンダーの問題もあるから、保険証やマイナンバーをかざせば生理用品を買える自販機があればいいな。

自治会回覧板でつなサポのことを知った。不妊のことも相談出来ますか。

「生理用品をもらうと（支援を受けていること）が恥ずかしいという思い」

恥ずかしさや後ろめたさから活用出来ないのではなくて、もらいやすい環境や周囲の理解が進む社会になって欲しい。

「話せる・相談出来る安堵感」

子育て中で大変な毎日、相談に乗ってくれるところがわかって良かった。

「子育てへの不安」

里帰り中。普段は夫と二人なので大変です。

育休明けの後の生活が不安。

「必要だと考える支援」

父子家庭の女子に対するサポートがあるといい。

職場で生理休暇を取りやすい環境になればよい。

支援の充実を感じた。

産婦人科受診の支援が欲しい。

※生理用品を通して「女性の貧困」や「無料配布」に関心の高いことがわかる。

また、生理用品を学校のトイレに置くことは、男性や社会の生理への理解が広まるのではないか。

男性の生理への理解を深めるために、他県でも行っている学習会をすべきと思う。